

サッカーだけでなく、仕事や趣味、オフの過ごし方など、選手の素顔の一端を紹介する「ふだん着の織姫たち」シリーズを、今シーズンもお届けします。今回は、いつも元気いっぱい、躍動感あふれるプレーを見せてくれるFW 安本紗和子選手(背番号 11)です。

やすもと まわこ
安本 紗和子 選手 (24歳)

=(株)トヨタレンタリース宮城勤務=

●「期日管理」にプロ魂●

本社レンタル部の一員として、車両の登録関係の書類やメーカーへの報告のデータ作成、レンタカーの保有台数、ビジネスメンバーカードの集計といった業務に携わっている。ブライントタッチでパソコンのキーボードを叩くリズムが軽やかだ。

「小学生の時、タイピングゲームをしていたのが生きています。仕事の内容は(以前の)東電時代とは全く違うので、初めは難しかったんですが、今ではだいぶ慣れました。うれしいのは、上司やディーラーから「早いね」「ありがとう」と褒められたり感謝されたりした時。勤務体制が変則的な分、「期日管理が大切なので、余裕を持って仕事をするよう心掛けています」と話す言葉に、プロ魂がのぞく。

静岡市の出身で、「トップレベルの所でサッカーをやりたい」と進んだ高校(常盤木学園)時代から通算すると、仙台での生活は7年目。「寒いことは寒いけれど、とても住みやすいです」。今は自炊。「基本的にはご飯と汁物ですが、ハンバーグとか肉じゃがも作ります。あと、サラダはちゃんと付けるようにしています」と話す。

ファッションは特にこだわりはなく、ブランドも意識しないとのことだが、『大人の女性』的な感じを目指しています。ロングスカートとか、結構履きますよ。あんまり足を露出したくないので」と、いたずらっぽく微笑む。オフのリラックス法はドライブや温泉。去年、チームの仲間と行った小岩井農場で食べたソフトクリームが「おいしかったなあ」。

●周りへの感謝忘れない●

昨シーズン、チームは中盤から失速。自身も6月末のリーグ戦の試合中、右膝に大ケガを負った。「状態がすごく良い時期だったので、悔しかった」。気持ちを切り替え、懸命なリハビリに取り組んで

迎えた新シーズンは新加入選手が7人。「年下の子たちがだいぶ入ってきたので、練習から声を掛けるよう意識しています」と、お姉さんぶりを発揮する。

周りのサポートへの感謝を忘れない。「移籍してきた年のホーム開幕戦、アップでピッチに入った時に受けた声援には感激しました。アウェーにもたくさんの人が駆け付けてくださり、本当に支えられていると痛感しています。去年の手術後はしばらく会社にも来られず、部の方々に助けていただきました。そうした、たくさんの皆さんに応えられるよう、結果を出したい」。相手の背後への飛び出しや衰えを知らない運動量がセールスポイントの“元気印”はこう結び、チームの力になることを誓った。



<応援しています!!>

●俊敏で正確な仕事ぶり●

職場ではすぐ近くの席です。ピッチに立っている時と同じく、仕事は俊敏で正確。例えば、私が「こういう書類を作って」と大まかにしか言わなくても、細かく理解してくれて、大いに助かっています。明るくって、そして、こう言うと怒られるかもしれないけれど、良い意味で負けん気が強いですね(笑)。去年は大きなケガをして本当につらかったと思いますが、サッカーの神様は必ず見守ってくれています。今季はケガなく、と願っています。

(取締役レンタル部長の安部信朗さん)

文:K. Tsuge 行先: K. Honma

軽やかにかにブライントタッチ



ベガルタ仙台レディース後援会
The Support Association of VEGALTA SENDAI LADIES

ベガルタ仙台レディース後援会通信【2015年度第1号(通算11号)】

ベガルタ仙台レディース後援会入会のご案内

私たちベガルタ仙台レディース後援会は、ベガルタ仙台レディースを応援し、さまざまな支援活動を通してスポーツ文化振興及び地域、社会の発展に寄与することを目的として設立いたしました。

ベガルタ仙台レディース後援会は会員一人ひとりがつくりあげる組織です。宮城を元気にしてくれるチームの活躍に感謝し、ともに応援しましょう。あなたの入会をお待ちしています。

- ホームゲーム会場の後援会ブースで受付をしています。
- 入会金 3,000円(初回のみ) ○年会費 1口 2,000円(何口でも)
- 入会特典 後援会オリジナルTシャツ、後援会オリジナルバッジ
- ★入会時は入会金と年会費を合わせた金額をお支払いください。(更新時は年会費のみ)
- ★2015年度会期は2016年1月31日までです。
- ★入会時に会員証をお渡しいたします。

後援会会員の皆様へ 会員継続・更新手続きのお願い

平素より後援会活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。発足以来、600余名の皆様にご入会いただき、そのご支援が大きな支えとなっておりますことを、心より御礼申し上げます。

ベガルタ仙台レディース後援会は、会員一人ひとりがつくりあげる組織です。まだ、2015年度の更新をされていない会員の皆様は、更新の手続きを行っていただき、引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。2015年度の会期は2015年2月1日～2016年1月31日です。

- 会員更新手続きは、以下の通りです。
- ☆ホームゲームの際に、後援会ブースで簡単に更新手続きができます。試合開始15分前まで開設しています。
- ☆郵便振替での更新手続き方法〔青色で印刷された振込取扱票をご使用ください〕
- 振込先：ベガルタ仙台レディース後援会 口座記号番号：02270-0-112505
- 通信欄：1) 会員番号 2) Eメールアドレス(変更ある場合のみ)
- 会費：一口 ¥2,000以上何口でも結構です。

後援会員の皆様へ ホームゲームブーススタッフ(ボランティア)募集のお知らせ

ホームゲームでは毎回、開場から試合開始15分前まで「後援会ブース」を開設して、多くの来場者に、選手・スタッフに関する情報の提供や、後援会通信+VL-PRESSの配布などを行っています。お手伝いいただける範囲で結構ですので、ぜひ力をお貸しください。よろしくお願い致します。詳しくは試合当日の後援会ブースでお尋ねください。

キャンプ壮行会で果物を贈りました

後援会は3月13日、泉パークタウンのクラブハウスで、キャンプ（14～21日・関東地区）に向けた壮行会を行い、選手の皆さんへたくさんの果物を贈りました。

「(株)いたがき」さんの強力な協賛をいただいてプレゼントしたのは、仙台いちご40パック、カット済みパイナップル40パック、熊本産スイカ4個、静岡みかん10箱、完熟王バナナ6箱、熊本産デコポン5箱。おいしい果物をたくさん食べ、怪我なくキャンプを乗り切ることができるようにと、祈りを込めました。

キャンプは、埼玉県や群馬県で、4回の練習試合を入れて行われました。その成果は、今後のリーグ戦で大いに花開くことでしょう。

後援会第3回定時総会が開かれました

2月14日午後1時20分～2時、仙台市の常盤木学園シュトラウスホールで、ベガルタ仙台レディース後援会の第3回定時総会が開かれました。総会には、後援会顧問の奥山恵美子仙台市長、来賓に(株)ベガルタ仙台西川善久社長らを迎え、総勢65人が参加しました。

松良由貴子会長、奥山市長、西川社長のあいさつに続き、5件の総会議案が提起され、満場一致で可決されました。

【提案・可決された議題は次の通り】

- 第1号議案 2014年度事業報告承認の件
- 第2号議案 2014年度収支決算等承認の件
- 第3号議案 2015年度事業計画・予算承認の件
- 第4号議案 役員（理事・監事）選任の件
- 第5号議案 顧問委嘱の件

【記念講演】

総会終了後、常盤木学園高校サッカー部監督の阿部由晴先生を講師にお迎えして「スポーツの力」と題する講演をいただきました。女子サッカー日本代表「なでしこジャパン」の選手をはじめ「なでしこリーグ」で活躍する多くの選手を育てこられた名監督。女子サッカーについての興味深い話を聞くことができました。

【恒例お楽しみ抽選会】

午後3時から、恒例となった「お楽しみ抽選会」を行いました。個人や法人から協賛いただいた「豪華」商品がもれなく当たる企画で、参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

【総会で選任された後援会役員は以下の通りです】

- 顧問：奥山 恵美子（仙台市長） 中島 信博（東北大学名誉教授）
- 会長：松良 由貴子（常盤木学園高等学校園長）
- 副会長：大山 照枝（アイリスオーヤマ株式会社）
松坂 信（株式会社すてーきはうす伊勢屋代表取締役社長）
横田 悦子（オレンジフィールドインドアテニススクール代表取締役）
- 理事：板垣金太郎、浅野 住江、黒沢 尚、齋藤 昭子、佐藤 幸恵、菅田 華江
柘植 健二、内藤 恵子、野澤 令照、吉田 護、米本 善則
- 監事：氏家 幸子、河野 雪子

～寄稿～ 選手の背中に想う

後援会顧問 中島信博（東北大学名誉教授）

2年前にレディース後援会がスタートする時、私は記念講演をさせていただきました。「私たちも背中を見えています」という、一風変わった題で、2008年に澤穂希さんが言った「私の背中を見て」という言葉をもじって付けたのだった。澤さんは試合で苦しくなったら、頑張っている自分の背中を見て、チームメイトにも頑張ってもらいたいと願ったことだったという。私自身は女子選手の背中に、なにを見ようというのか。私はなんとなく、「女性の人生」や「女性の生きる社会」を見てしまうところがある。

東日本大震災の少し前、私はコロラドにアメリカ人研究者を訪ねる機会があった。なでしこジャパンがW杯優勝を遂げる前であり、女子サッカーに私はそれほど関心もなかったのだが、平原に20面くらいはあったろうか、広大なグラウンドに行き、孫たちのプレーを見せてくれたのだった。その時、彼の言った言葉が忘れられない。「若い親たちが女の児にやらせたいスポーツは、安全なチームスポーツであるサッカーなんだよ」というのだ。見渡す限りの芝生で、ボールを追いかける女の児たち。それをグラウンドに立って取り巻いている親たち、あるいは祖父母たち。こんなに盛んなのだ、と震撼する思いだった。そして、サッカーが「女性に安全」と見られていること、「集団」のなかで過ごすことが成長に欠かせないと思われていることにも興味をそそられた。

その後、あらためて女子のサッカー界を見てみると、なるほど、アメリカは強い。その裾野に、日本とは桁違いな競技者の数があり、さらにその背後には、普通の親たちが当たり前前に抱いている我が子への願いが控えていると思わずにいられなかった。「社会」は女性の人生をどう見ているか。選手は、生きていく社会を背負っているのではないだろうか。

（2015年度後援会総会で顧問に就任された中島信博さんの寄稿文を連載します。）

後援会ブーススタッフ紹介その1

金森ヨシ子さん

ベガルタ仙台レディース後援会は、ホームゲームの後援会ブースで、入場者の皆様に情報をお伝えする活動（後援会通信・VL-Pressの配布、後援会活動の紹介、後援会加入・更新）に取り組んでいます。役員とともに活動するボランティアスタッフの方を紹介します。

金森ヨシ子さん、昭和10年お生まれの御年80歳。ベガルタ仙台レディースの前身である東京電力マリーゼのときからの応援者です。平成24年10月のベガルタ仙台レディース後援会設立後から継続して、後援会ブースでのボランティア活動に参加しています。

金森さんは、東日本大震災と原発事故のあと、住まいのあった福島県富岡町から川内村、三春町、田村市、いわき市の避難所等を経由し、4日目に熱海市の娘さん宅にたどり着いたとのこと。着の身着のまま、バッグひとつを持っての避難だったそうです。現在は、いわき市のみなし仮設住宅にお住まいで、ホームゲームの時は早朝高速バスで仙台へ、みんなに会うのがうれしいと元気に活動に参加、選手への応援に熱が入ります。